アジアに架ける虹の橋

アジア生協協力基金活動報告書

2018



はじめに

アジア生協協力基金はアジアの生協・協同組合の発展への貢献と交流・協力活動の推進を目的として、1987年に日本生協連に全国の生協が寄せあった寄付金により設立されました。当基金は設立当初以降、主にアジア地域の生協役職員研修などに活用されてきました。

そして2010年度より生協総合研究所の公益財団法人化を契機に、一般公募による助成を始めました。助成の対象は、日本国内に拠点をもつ非営利組織がアジア・太平洋地域で支援する、協同組合および現地の住民による協同の力で実施する事業です。それから2017年度で8年を経ましたが、助成組織が支援する現地で人材育成は着実に進んできています。

2017年度国際協力助成事業では、みやぎ生協、コープデリ連合会、コープこうべの各生協のご協力により「生協マネジャー研修」が開催されました。アジアの生協店舗のマネジャーが実践的に学び、幹部を育てる「生協経営ワークショップ」は、第17回を迎えました。「ICA-AP*1事務局、ICA-AP生協委員会共催 キルギス生協および協同組合開発ワークショップ」は、アジアの他地域に比べ協同組合開発が遅れている中央アジア諸国(キルギス、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン)の生協および協同組合の開発を促進することを目的に開催されました。「ICA-AP大学/キャンパス生協委員会セミナー」では、持続可能な開発目標(SDGs*2)実現の為に、キャンパス・コープの参画強化について活発な議論が交わされました。

一方、一般公募助成事業では、わかちあいプロジェクトによるミャンマーでのコーヒー栽培技術指導は3年の助成期間を満了し、まだ少量ですが日本へ輸入するまでになりました。ブリッジ エーシア ジャパンは、ベトナムで有機野菜栽培技術と直売所運営の指導をしています。ホープアンドフェイスインターナショナルはヒマラヤで養蜂に取り組んでいます。スバ・ランカ協会は、スリランカでアイスクリームの製造販売を開始しています。ハロハロは、フィリピン海藻水産業組合を立ち上げました。アジア・コミュニティ・センター21は、スリランカで農産物の加工・保管等の拠点施設となるマーケティング・センターを建設し女性生産者グループを支援しています。テラ・ルネッサンスは、カンボジアで組合運営の家畜銀行や農産物販売所を立ち上げています。わびねすは、インドのハンセン病コロニーで、きのこ栽培・販売トレーニングを通して自立支援に取り組んでいます。

助成事業は本当に地道な取り組みです。しかし、すでに30年の歴史を経たアジア生協協力基金をさらに継続していくことが必ず将来のアジア・太平洋地域の発展につながると確信します。

あらためて各団体のご奮闘に感謝と敬意を表するとともに、今後も引き続き皆様のご協力をお願い申し上げる次第です。

※1 国際協同組合同盟アジア太平洋地域(International Co-operative Alliance Asia and Pacific) ※2 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

2018年6月 公益財団法人 生協総合研究所 専務理事 小 方 泰

アジアに架ける虹の橋 アジア生協協力基金活動報告書・2018

はじめに		1
目次		2
第1章	アジア生協協力基金の概要	3
	1. 設立の経緯	4
	2. 生協総研移管時の基金の内訳	4
	3. 2017年度の基本財産と一般正味財産	4
	4. アジア生協協力基金運営委員会	5
	5. 寄付の方法	5
	6. 2017年度の財務関係報告資料	6
第 2 章	2017年度の活動報告	9
	1. 2017年度の助成事業の概況	10
	2. 2017年度の助成事業の執行状況	11
	3. 2018年度の事業準備活動	11
	4. 2017年度各企画の決算概要	12
	①国際協力助成企画	12
	②一般公募助成企画	13
	5. 個別活動報告	14
	①国際協力助成企画	
	ICAアジア太平洋地域生協委員会 選抜生協マネジャー研修 1	14
	ICAアジア太平洋地域生協委員会 選抜生協マネジャー研修2	15
	ICA-AP事務局、ICA-AP生協委員会共催 キルギス生協および協同組合開発ワークショップ開催(キルギス)	16
	ICA-AP生協委員会主催 第17回生協経営ワークショップ開催(シンガポール)	17
	ICA-AP大学/キャンパス生協委員会 セミナーおよび現地大学生協視察(マレーシア)	18
	②一般公募助成企画	
	認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン	19
	特定非営利活動法人 ホープアンドフェイスインターナショナル	20
	特定非営利活動法人 スバ・ランカ協会	21
	一般社団法人 わかちあいプロジェクト	22
	特定非営利活動法人 ハロハロ	23
	特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター21	24
	認定特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス	25
	特定非営利活動法人 わぴねす	26
第3章	2018年度の活動計画	27
	1. 2018年度計画決定の経緯	28
	2. 2018年度事業計画	28
	3. 2019年度の一般公募について	30

第 1 章

アジア生協協力基金の概要

- 設立の経緯
- | 2|| 生協総研移管時の基金の内訳
- 3 2017年度の基本財産と一般正味財産
- 4 アジア生協協力基金運営委員会
- 5 寄付の方法
- 6 2017年度の財務関係報告資料

第1章 アジア生協協力基金の概要

Ⅲ 設立の経緯

アジア生協協力基金は、1987年、アジアの生協・協同組合の発展への貢献と交流・協力 活動の推進を目的に、日本生活協同組合連合会(以下、日本生協連)とその会員生協、日本生 協連役職員、傘下企業の寄付金によって設立されました。当基金は、1989年、日本生協連に よって同年に設立された財団法人 生協総合研究所(以下、生協総研)に移管され、1991年より、 アジアの生協を対象とする役職員の研修事業などが、運用益を利用して実施されてきました。 2018年3月末の基金の基本財産は約8.8億円です。

現在、韓国・ベトナム・インド・シンガポールなどの国々の生協は、それぞれの国の流通業界 のなかで大きな役割を発揮しています。医療生協や大学生協も活躍しています。こうした生協 では、日本で研修を受けた役職員が活躍しています。

2009年、生協総研は公益財団法人に移行しましたが、これに伴い、アジア生協協力基金にも、 より公益性を発揮することが求められました。このため、日本国内に拠点を有する非営利組織・ グループへの一般公募による助成を開始しました。助成の対象は、アジア各地で展開される事 業で、住民の協同の力で社会的経済分野での開発や問題解決を目指すプロジェクトです。とり わけ人材開発事業や事業の立ち上げのための活動が対象となります。過去6年間の一般公募 による助成実績は下表のとおりです。

助成年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
対象組織数	7組織	9組織	6組織	6組織	7組織	8組織
助成金額合計	400万円	500万円	493万円	530万円	641万円	699万円

生協総研移管時の基金の内訳

基金が生協総研に移管された2009年時点における生協別寄付金一覧表を、生協総研ホー ムページ(http://ccij.jp/)にて公表しておりますので、ご参照ください。

2017年度の基本財産と一般正味財産

2017年度の基本財産と一般正味財産(利息)は以下のようになります。

(1)基本財産

①2017年度期首残高(2017年4月1日) : 879,566,015円

②2017年度内基金修正等 △ 30,557円

※上記金額は満期保有目的の債券の取得価額と額面金額の差額を償却原価法(定額法)によっ て処理した金額です。

③2017年度期末残高(2018年3月31日) : 879,535,458円

(2)一般正味財産の増減

①2017年度期首(2017年4月1日) 32,558,262円

②2017年度期中の増減	: 1,359,877円 減少
・増加合計	: 15,085,750円 増加
雑収益	15,085,750円
・減少合計	: 16,445,627円 減少
i)国際協力助成金	4,961,714円
※アジア生協協力基金から国際協力助成	成企画として日本生協連国際活動委員会(5企画)に
助成した金額です。	
ii)一般公募助成金(8企画)	6,994,000円
iii)基金運営費	638,213円
iv)活動報告書作成費·送料	506,560円
v)事務管理費	3,345,140円
③2017年度末残高(2018年3月31日時点	(): 31,198,385円
④2018年度期中の受取利息見込額	
有価証券および定期預金の運用により、約	り1,510万円の収益を見込んでいます。

4 アジア生協協力基金運営委員会

2009年5月、生協総研理事会は、「公益財団法人における公益目的事業としての位置付け を明確にするために、アジア生協協力基金の運営に関する事業計画の起案、公募企画の募集・ 選考、事業報告の検討のために、理事会の下に運営委員会を設置し、運営委員会の議を経て 理事会が意思決定を行う」ことを決定しました。

2017年6月の生協総研第1回理事会で、アジア生協協力基金運営委員を選任しました。委 員の構成は、生協総研の理事および評議員と外部専門家の5人となっています。2018年5月 現在の委員は以下のとおりです。

委員長:赤石 和則(拓殖大学 国際学部教授)

委員: 新井 ちとせ(日本生活協同組合連合会副会長、生協総研評議員)

委員: 石田 敦史(パルシステム生活協同組合連合会理事長、生協総研評議員)

委員:村田 雄二郎(同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科教授)

委員: 湯本 浩之(宇都宮大学 留学生・国際交流センター教授)

5 寄付の方法

アジア生協協力基金への寄付は、生協総研(公益財団法人 生協総合研究所)が申し受けま す。寄付金の振込先は、アジア生協協力基金専用口座になります。アジア生協協力基金への寄 付をご希望の方は、生協総研事務局へご連絡ください。

6 2017年度の財務関係報告資料

貸借対照表

2018年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I資産の部			
1. 流動資産			
普通預金	17,096,065	18,771,975	△ 1,675,910
未収入金	2,494,900	2,506,800	△ 11,900
定期預金	15,000,000	15,000,000	0
流動資産合計	34,590,965	36,278,775	△ 1,687,810
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	6,076,424	6,076,424	0
投資有価証券	873,459,034	873,489,591	△ 30,557
固定資産合計	879,535,458	879,566,015	△ 30,557
資産合計	914,126,423	915,844,790	△ 1,718,367
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,392,580	3,720,513	△ 327,933
流動負債合計	3,392,580	3,720,513	△ 327,933
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	879,535,458	879,566,015	△ 30,557
指定正味財産合計	879,535,458	879,566,015	△ 30,557
2. 一般正味財産			
一般正味財産	31,198,385	32,558,262	△ 1,359,877
正味財産合計	910,733,843	912,124,277	△ 1,390,434
負債及び正味財産合計	914,126,423	915,844,790	△ 1,718,367

正味財産増減計算書

2017年4月1日~2018年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	15,084,100	15,111,200	△ 27,100
積立資産受取利息	15,084,100	15,111,200	△ 27,100
雑収益	1,650	8,211	△ 6,561
受取利息	1,650	8,211	△ 6,561
経常収益計	15,085,750	15,119,411	△ 33,661
(2) 経常費用			
人件費	2,992,175	3,299,389	△ 307,214
助成費・運営費	13,100,487	13,401,607	△ 301,120
物件費	352,965	378,644	△ 25,679
経常費用計	16,445,627	17,079,640	△ 634,013
当期経常増減額	△ 1,359,877	△ 1,960,229	600,352
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,359,877	△ 1,960,229	600,352
一般正味財産期首残高	32,558,262	34,518,491	△ 1,960,229
一般正味財産期末残高	31,198,385	32,558,262	△ 1,359,877
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	12,353,543	12,380,643	△ 27,100
一般正味財産への振替額	△ 12,384,100	△ 12,411,200	27,100
当期指定正味財産増減額	△ 30,557	△ 30,557	0
指定正味財産期首残高	879,566,015	879,596,572	△ 30,557
指定正味財産期末残高	879,535,458	879,566,015	△ 30,557
Ⅲ 正味財産期末残高	910,733,843	912,124,277	△ 1,390,434

助 成 費 明 細

内 訳	金 額(円)
① 日本生活協同組合連合会 国際協力助成企画	4,961,714
② 一般公募助成企画	6,994,000
ブリッジ エーシア ジャパン	850,000
ホープアンドフェイスインターナショナル	613,000
スパ・ランカ協会	900,000
わかちあいプロジェクト	850,000
ハロハロ	980,000
アジア・コミュニティ・センター21	996,000
テラ・ルネッサンス	999,000
わぴねす	806,000
③ 助成成果確認現地視察費用	_
④ 基金運営費	638,213
運営委員会出席者 出席手当・旅費・宿泊費	363,590
運営委員会出席者 お昼代	14,641
運営委員会出席者 懇親会費	100,485
2017年度一般公募プレゼンテーション参加者旅費	145,025
振込み手数料、送料	14,472
⑤ 活動報告書作成費および送料	506,560
⑥ 事務管理費	3,345,140
生協総研 i)人件費	2,992,175
ii)その他管理費(家賃・OA機器・通信費・消耗品)	352,965
合 計	16,445,627

第 2 章

2017年度の活動報告

- 2017年度の助成事業の概況
- | 2|| 2017年度の助成事業の執行状況
- 3 2018年度の事業準備活動
- 4 2017年度各企画の決算概要
 - ①国際協力助成企画
 - ②一般公募助成企画
- 5 個別活動報告

第2章 2017年度の活動報告

2017年度の助成事業の概況

(1)国際協力助成企画

2017年度は、国際活動委員会の国際協力助成企画として5企画が実施されました。

日本生協連は、国際協同組合同盟アジア太平洋地域(ICA-AP)生協委員会の活動を支援 し、ICA-AP生協委員会委員組織と協力し、「生協マネジャー研修1・2」(日本)、「生協経営 ワークショップ」(シンガポール)、「ICA-AP事務局、ICA-AP生協委員会共催 キルギス生協お よび協同組合開発ワークショップ」(キルギス)を開催しました。

これらの企画の実行にあたり、研修生受入れ、ワークショップ・セミナーの開催準備および 講師派遣のため、アジア生協協力基金の助成金を活用しました。

このほか、全国大学生協連による「ICA-AP大学/キャンパス生協委員会セミナーおよび 現地大学生協視察」(マレーシア)のために、アジア生協協力基金の助成金を活用しました。

なお、医療福祉生協連の企画、「日本・アジア歯科協同組合間の歯科技術交流、人材交流」 (モンゴル)は、相手先の事情により中止しました。

(2)一般公募助成企画

一般公募助成企画では8企画が実施されました。

2017年度でわかちあいプロジェクトは、3年の助成期間が満了となりました。2015年に ミャンマーで生産者組合を立ち上げ、コーヒー栽培を開始。まだ少量ですが、いよいよ日本での 販売が始まります。 ブリッジ エーシア ジャパンとテラ・ルネッサンスは、助成2年目になりまし た。 ブリッジ エーシア ジャパンは、ベトナムで有機野菜栽培技術支援と直売所の経営に取り 組み、テラ・ルネッサンスは、カンボジアで家畜銀行を設立し家畜の貸出業務に取り組みまし た。ホープアンドフェイスインターナショナル、スバ・ランカ協会、ハロハロ、アジア・コミュニ ティ・センター21、わぴねすの5組織は、2017年度に初めて助成対象となりました。ホープア ンドフェイスインターナショナルは、ネパールのヒマラヤ山脈の麓で養蜂事業にチャレンジ。ス バ・ランカ協会は、スリランカでアイスクリームの製造販売。ハロハロは、フィリピンで海藻農 業や運送事業、マングローブ植樹などの環境保全事業。アジア・コミュニティ・センター21は、 スリランカで女性を組織化して農産物の加工と市場開拓。わぴねすは、インドのハンセン病 コロニーできのこ栽培を通した自立支援。それぞれユニークで興味深いプロジェクトが実施 されました。



有機農業視察研修会の参加者の皆さん (ブリッジ エーシア ジャパン)



コーヒー有機栽培の研修の様子 (わかちあいプロジェクト)



村人の中から家畜専門家を養成しました (テラ・ルネッサンス)

| 2|| 2017年度の助成事業の執行状況

2017年度助成事業の執行状況は以下のとおりでした。

国際協力助成企画(日本生協連 国際活動委員会)の承認した6企画うち5企画が実施され、 予算600万円に対して496万1,714円の執行(執行率:82.7%)となりました。医療福祉生協 連の企画は、相手先の事情により中止しました。

一般公募助成企画は、8企画がすべて実施され、700万円の予算に対して699万4.000円が 執行(執行率: 99.9%)されました。助成決定額に対する執行率は100%となりました。

事業経費では、2016年度の活動報告書『アジアに架ける虹の橋』2017年版の発行・送付 経費として50万6.560円(予算60万円)、アジア生協協力基金運営委員会開催経費等として 63万8,213円(予算99万円)が支出されました。また、事務管理費は334万5,140円(予算 220万円)でした。経費の合計額は1,644万5,627円、予算執行率は97,9%でした。

3 2018年度の事業準備活動

2018年度のアジア生協協力基金の予算枠組みは、一般正味財産の動向をもとに、日本生 協連国際部との協議を経て、生協総研第2回理事会(2017年7月28日)に提案、承認されまし た。国際協力助成金600万円、一般公募助成金700万円を予算枠としました。

一般公募助成を、2017年9月1日から10月31日まで生協総研のホームページや国際協 カNGOセンター(JANIC)などの協力を得て広報し、17組織からの応募をいただきました。 2017年12月に書類審査、2018年1月にプレゼンテーション審査を行いました。その結果、7 組織が助成に値すると判断し、助成金680万9,000円を理事会に提案しました。国際協力助 成企画については、日本生協連第2回国際活動委員会(2017年12月15日開催)において、 全国大学生協連と医療福祉生協連の2企画も含めて6企画の活動に対する助成金600万円の 予算案が策定されました。2018年2月2日の生協総研第4回理事会で、一般公募助成企画・ 国際協力助成企画ともに原案通り決定されました。



藁を加工して牛のエサにする (スバ・ランカ協会)



菜の花畑と養蜂箱 (ホープアンドフェイスインターナショナル)



完成したマーケティングセンター前で記念写真 (アジアコミュニティセンター21)



4 2017年度各企画の決算概要

	2017年度予算(円)	2017年度決算(円)	執行率
国際協力助成企画	6,000,000	4,961,714	82.7%
一般公募助成企画	7,000,000	6,994,000	99.9%
助成成果確認現地視察費用	_	_	_
2017年版活動報告書等	600,000	506,560	84.4%
基金運営費	990,000	638,213	64.5%
事務管理費	2,200,000	3,345,140	152.1%
合計	16,790,000	16,445,627	97.9%

① 国際協力助成企画

No.	企画内容	予算(円)	決算(円)
1	ICA-AP生協委員会 選抜生協マネジャー研修1 (コープデリ連合会、みやぎ生協コース) (フィリピン、インド、マレーシア、韓国、モンゴル)	1,650,000	1,650,000
2	ICA-AP生協委員会 選抜生協マネジャー研修2 (コープデリ連合会、コープこうベコース) (シンガポール、ベトナム)	1,950,000	1,752,894
3	ICA-AP事務局、ICA-AP生協委員会共催 キルギス生協および協同組合開発ワークショップ開催 (キルギス)	600,000	579,850
4	ICA-AP生協委員会主催 第17回生協経営 ワークショップへの講師派遣(シンガポール)	600,000	578,970
5	(全国大学生協連) ICA-AP大学/キャンパス生協委員会セミナーおよび 現地大学生協視察(マレーシア)	400,000	400,000
6	(医療福祉生協連) 日本・アジア歯科協同組合間の歯科技術交流、 人材交流(モンゴル)《中止》	800,000	0
合計	(2017年度予算600万円に対する執行率82.7%)	6,000,000	4,961,714



フィリピンで海藻農家の海藻栽培を支援 (ハロハロ)



インド・ハンセン病コロニーの村人 (わぴねす)

② 一般公募助成企画

No.	申請者	事業概要	助成額(円)	執行額(円)
1	認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン	ベトナム・フエの農家グループの 有機野菜栽培技術研修と組織力 強化事業	850,000	850,000
2	特定非営利活動法人 ホープアンドフェイス インターナショナル	ネパール・ヒマラヤ養蜂 プロジェクト	613,000	613,000
3	特定非営利活動法人 スバ・ランカ協会	スリランカ・サバラガムワ州 ケーゴール県の農山村での 1州1品運動の第一歩事業	900,000	900,000
4	一般社団法人 わかちあいプロジェクト	ミャンマー・カヤ州における コーヒー栽培農家への生産者 組合設立支援	850,000	850,000
5	特定非営利活動法人	フィリピン・ボホール州アルマー ル村地域海藻水産業組合設立 支援	980,000	980,000
6	特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・ センター21	スリランカ・女性住民組織による 共同農業ビジネス開発と市場開拓 を通じた地場産業の育成と女性の エンパワメント	996,000	996,000
7	認定特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス	カンボジア・ロカブッス村協同組 合組織化によるコミュニティ・ レジリエンス向上支援事業	999,000	999,000
8	特定非営利活動法人 わぴねす	インド・ハンセン病コロニーに おけるきのこ栽培・販売トレー ニングを通じた自立支援事業	806,000	806,000
合計	合 (助成決定額に対する執行率: 100%) (2017年度予算700万円に対する執行率: 99.9%)		6,994,000	6,994,000



女性組織と生産者との会合に銀行も参加 (アジアコミュニティセンター21)



参加メンバー全員がきのこ栽培ノウハウを会得 (わびねす)



スタディツアーのウェルカムパーティは とてもにぎやか(ハロハロ)

5 個別活動報告

国際協力助成企画 ①

日本生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域生協委員会 選抜生協マネジャー研修 1

助成金額 1.650.000円 実施期間 2017年7月17日~7月30日 相手国 フィリピン、インドマレーシス韓国、モンゴル

▶ 学んだことを活かしながら、自生協の発展に貢献していきたい //////////

1)活動・事業報告

研修生は、以下の5人でした。

- ・メイリーン マラピタン キロズ(女性) フィリピン/セブミツミ多目的協同組合
- ・サンディップ パンドゥラン ポワール(男性) インド/シリーワラナ生協
- ・ハナフィビンバシラン(男性) マレーシア/ハシルダラムネゲリ多目的協同組合
- ・ソンチョル パク(男性) 韓国/ドゥレ生協連合会
- ・ビルグンボルドスク(男性) モンゴル/モンゴルネイバー生協

研修生たちは、研修のはじめに日本生協連で日本の生 協の概要と日本生協連の商品政策について学びました。 商品政策の一環で日本生協連商品検査センターも見学 しました。

その後、コープデリ連合会本部で、コープみらいと事 業連合の概要説明を受けた後、東京都生協連本部を訪 問し、都連の概要説明を受け、東京都生協連会館内に ある「コープみらいえ中野」(コープみらい・サービス付き 高齢者向け住宅)を見学し、コープみらいの高齢者向け 福祉事業について学びました。また、コープみらい中野 中央店、府中寿町店を見学し、店舗運営について理解を 深めました。

みやぎ生協では、「店舗運営の概要」、「メンバー活 動」、「職員教育」、「競合店対策プロモーション」、「みや ぎ生協の産直コンセプト」、「被災時のみやぎ生協の取り 組み」などのプログラムで研修が行われました。

店舗の現場研修として、みやぎ生協榴岡店を訪問し、 店長から店舗方針についてお話を伺うとともに、副店長 及び各部門チーフから各部門の販売における努力・工夫 についてお話を伺いました。



みやぎ生協榴岡店店長より店舗方針について説明を受ける

現地視察として、みやぎ生協の産直「めぐみ野」の産地 を見学し、生産者と消費者をつなぐ産直事業、農協との 協同の取り組みについて学びを深めました。また、コー プ東北サンネット事業連合の物流センターを見学し、共 同購入・店舗への配送の仕組みを学び、組合員・店舗か ら回収した廃棄物を再資源化するリサイクルセンターも 訪問し、みやぎ生協の環境に配慮した取り組みを学びま

最終日には、研修の総括会議があり、研修生たちは、 自組織の抱える問題点、研修で学んだことを帰国後にど のように活かしたいか、また、そのための行動計画をみ やぎ生協の役員の前で発表しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

みやぎ生協の店舗に加えて、規模の異なる競合店2店舗 を訪問し、みやぎ生協と競合店の事業戦略、店舗コンセ プトの比較を行ったことで、より魅力的で生協らしい店 づくり、事業・商品展開についてのアイディアを得ること ができたとの意見が多くありました。

「職員教育」に関する講義では、みやぎ生協が職員に どのような教育を行っているか、どのようにやる気を引き 出して業務の効率をアップさせているかについて学ぶこ とができました。特に「いいねカード」「しごとカード」に ついては、研修生は高い関心をもち、自組織で実践して みたいという感想が多く出ました。

また、効率的な店舗運営、地域・組合員を大切にする 姿勢、組合員の声を事業や活動に反映させる仕組み、組 織内外の協同、環境に配慮した取り組みが非常に参考 になったと述べていました。



国際協力助成企画 ② | 実 施

日本生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域生協委員会 選抜生協マネジャー研修 2

助成金額 1.752.894円 実施期間 2017年11月20日~12月3日

相手国ーシンガポール、ベトナム

▶ 組合員の自主的な活動の促進と組合員向けの活動を積極的に実践したい ////

1)活動・事業報告

研修生は以下の5人でした。

- ・ヘン ジン イ(男性) シンガポール/フェアプライス生協
- ・ ウン ライ チン(女性) シンガポール/フェアプライス生協
- ・ウン セー ティオン(男性) シンガポール/フェアプライス生協
- ・トゥラン クオク ビエット(男性) ベトナム/サイゴンコープ
- ・フイン ビチ トゥイ(女性) ベトナム/サイゴンコープ

研修生たちは、研修のはじめに日本生協連で日本の生 協の概要と日本生協連の商品政策について学びました。 商品政策の一環で日本生協連商品検査センターも見学 しました。

その後、コープデリ連合会本部で、コープみらいと事 業連合の概要説明を受けた後、野田船形物流センター を見学し、個人宅配の物流の仕組みを学びました。次 に、東京都生協連本部を訪問し、都連の概要説明を受 け、東京都生協連会館内にある「コープみらいえ中野」 (コープみらい・サービス付き高齢者向け住宅)を見学 し、コープみらいの高齢者向け福祉事業について学びま した。また、コープみらい中野中央店を見学し、店舗運 営について理解を深めました。

コープこうべでは、「コープこうべの歴史と役割、組合 員活動」、「店舗事業と業務改革」、「自動発注」、「職員 教育」、「接遇教育」、「宅配事業と夕食宅配」、「環境の 取り組み」など、幅広い内容で研修が行われました。

店舗の現場研修として、コープこうベコープデイズ 芦屋店を訪問し、接客やレジ等を体験し、また、各部門 チーフとの交流を通して、実際の店舗運営について学ぶ とともに、店舗内のレストスペースでカフェを運営する 組合員との交流を通して、組合員活動についての理解を

現地視察として、協同購入センターを見学し、組合員 に商品をお届けするまでの仕組みについて学びました。 また、エコフォームを訪問し、食品残さの回収・堆肥づ くり・野菜生産・販売の循環型農業について学びを深め

最終日には、研修の総括会議があり、研修生たちは、 自組織の抱える問題点、研修で学んだことを帰国後に どのように活かしたいか、また、そのための行動計画を コープこうべの役員の前で発表しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

フェアプライス生協、サイゴンコープでは、日本の生 協のような組合員制や組合員の自主的な活動が組織さ れていないため、研修生たちは組合員活動についての講 義や組合員との交流に高い関心を持ち、自国でも組合員 活動の促進に取り組み、組合員向けの活動を積極的に 実践したいと述べていました。

店舗視察では、ポップなどを使った商品のプロモー ション、商品陳列、在庫管理の仕組みが参考になり、自 国での店舗運営の改善に役立てたいと述べていました。

日本の生協の事業面だけでなく、活動面についても幅 広く学んだことで、生協として地域や社会に対する責任 をどのように果たしていったらいいのかについて、改めて 考える良い機会となったとの意見がありました。



コープみらい中野中央店を視察



コープこうべ コープデイズ芦屋店の皆さんと



修了書を手にする研修生

国際協力助成企画 ③

日本生活協同組合連合会

ICA-AP事務局、ICA-AP生協委員会共催 キルギス生協および協同組合開発ワークショップ開催

助成金額 579.850円

実施期間 2017年6月30日~7月2日

相手国 キルギス

1)活動・事業報告

このワークショップは、ICAアジア太平洋地域事務局と ICAアジア太平洋地域生協委員会の共催、キルギス協 同組合連合(CUK)とICA-EUパートナーシッププロジェ クトの協力により開催されました。ワークショップ開催に より、アジアの他地域に比べ協同組合開発が遅れている 中央アジア諸国(キルギス、カザフスタン、タジキスタン、 トルクメニスタン、ウズベキスタン)の生協および協同組 合の開発を促進することを目的としています。

ワークショップには、キルギス政府大臣、キルギスと スイスの国際機関代表、キルギス協同組合連合会代表、 カザフスタンのICA会員、トルコとアフガニスタンの政府 代表など、約130人が参加しました。

ワークショップは3つのセッションで進行されました。 セッション 1 では、「中央アジアの協同組合の現状」と いうテーマでキルギス、カザフスタン、アフガニスタンの 代表6名から現状・問題点・課題に関する報告があり、 ILO中央アジア地域上級コンサルタントのフセイン・ポ ラット氏がファシリテーターを務めました。

セッション2では、「ICAと地域間協同組合ネットワー ク」というテーマで、ICAアジア太平洋地域の活動につ いて報告がありました。前LO協同組合専門家のイゴル ヴォカッチ氏がファシリテーターを務めた同セッションで は、バル事務局長ほか3人のICAアジア太平洋地域事務 局代表から、ICAアジア太平洋地域が行っている各分野 の活動報告がありました。バル事務局長はまた、日本生 協連の代理で日本の生協の活動報告について報告しま した。

セッション3では、「中央アジアの協同組合連盟を強 化するための国際機関の知識共有」というテーマで討議 が行われました。ファシリテーターはバルICAアジア太

平洋地域事務局長が務めました。このセッションには、 国連世界食糧計画(WFP)、国際労働機関(ILO)、国連 ウィメン(UN Women)などの代表6名が発表と討議を 行いました。

ワークショップ期間中、ICA会員協同組合の手工芸品 や農産品の展示も行われました。また、最後の日はイス ク・クル地域の農業協同組合2ヶ所を訪問しました。

アジア基金の助成金は、講師の旅費、ワークショップ 開催費の一部として活用させていただきました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

はじめて中央アジアで開催するワークショップで、 ICA、キルギスの協同組合および政府、中央アジアの協 同組合関係者に、情報交換、持続可能な協同組合の開 発を実現するためのネットワークづくりの貴重な機会を 提供しました。中央アジア諸国の協同組合の発展の土台 になった今回の企画は、有意義なワークショップになり ました。



約130人が参加しました



キルギス、カザフスタン、ICAの参加の皆さん



ワークショップの報告者

国際協力助成企画 ④

日本生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域生協委員会主催 第17回生協経営ワークショップ開催

助成金額 578.970円

実施期間 2017年7月25日~7月27日

相手国シンガポール

1)活動・事業報告

このワークショップは、ICAアジア太平洋地域生協委員 会加盟組織の推薦を受けた協同組合の幹部を対象にした 研修プログラムです。シンガポール・フェアプライス生協 の事業概要および生協事業に関わるケーススタディの講 義を受けることを目的としています。

今回の参加者は、マレーシア4名、フィリピン2名、イン ドネシア2名、スリランカ5名、ベトナム6名、日本人2名 (「フェアプライス生協若手職員海外選抜研修」でシンガ ポールに派遣されているコープこうべの職員)、講師+事 務局9名の計30名の参加で実施されました。フェアプライ ス生協の講師陣からは、小売、仕入、販売、国際貿易な ど、様々な事業分野について説明がありました。また、生 協店舗も訪問しました。

今年のワークショップでは、「小規模店舗の運営」をテーマ とした、下記2つの特別講義とグループワークを設けました。

講義①「フェアプライス・ショップ」(フェアプライスス トア/アデルライン・ウー グループマネー ジャー)、アデルライン氏の講義では、低所得 者向けのディスカウントストア「フェアプライ ス・ショップ」の概要について講義がありまし た。2016年からスタートしたフェアプライス・ ショップは、現在6店舗あり、低価格商品の ニーズが高いHDB(公営住宅)のエリアを中心 に展開しています。店舗では、生鮮、グローサ リーのPB品を多く取り扱い、商品の品ぞろえ、 価格面で同じ規模のコンビニエンスストアとは 異なる戦略で事業を行っています。

講義②「サイゴンコープの小規模スーパー・コープフー ドチェーンについて」(サイゴンコープ・コープ フード運営本部/グエン・ビチ・リー本部長)、

リー氏の講義では、「コープフードチェーン」は 忙しい主婦層に利用してもらうため、ホーチミン 市内の住宅地を中心に出店し、生鮮を強化し、 同じく小型店舗のコンビニエンスストアと差別 化を図っていると説明がありました。このフォー マットは、約10人の職員配置で店舗運営ができ るので、従来のスーパーより少ない人員で運営 できます。2008年から事業を開始し、2017年 7月現在、ホーチミン市内に145店舗、他地域 に5店舗あります。店舗全体のうち、13店舗が フランチャイズ経営で展開中で、小型店の強み が学べる講義内容でした。

グループワークでは、講義を受けて、フェアプライス・ ショップとコープフードチェーンの特徴と戦略について、自 分たちの組織ではどのようなタイプの店舗が望ましいのか について話し合いました。

アジア生協協力基金の助成金は、講師の旅費、ワーク ショップの開催費の一部として活用させていただきました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

参加者からは、「特別講義は単なる学習ではなく自組織 にも参考になる」、「期待以上に勉強になった」、「参加者た ちの交流もよかった」という感想が出ました。

終了後のアンケートでは、「フェアプライス生協の概要、 小売事業について学べてよかった」、「日数を増やしてもっ と勉強したかった」、「参加者同士の意見交換もとても勉強 になった」という感想がありました。

プログラム全体を通じ評価が高かったことから、有意 義なワークショップになりました。



ワークショップ参加の皆さん



グループディスカッションの様子



フェアプライス生協の会員制 ホールセールクラブ

国際協力助成企画 ⑤

全国大学生活協同組合連合会

ICA-AP大学/キャンパス生協委員会 セミナーおよび現地大学生協視察

助成金額 400.000円

実施期間 2017年11月12日~13日

相手国マレーシア

▶ 日本の大学生協のとりくみとSDGsのプレゼンテーションを行いました //////

1)活動・事業報告

11/12(日)午前は、ICAアジア太平洋地域/大学キャン パス委員会が開かれ、日本からの活動報告がきっかけで 各国における奨学金と学生サポートの議論が盛り上がり ました。午後は、マラヤ大学を訪問しました。(日曜日の ため、見学のみ)

11/13(月)は、ICA大学/キャンパスコープグローバル ワークショップが開催されました(参加者:120名)。この 企画は、国際協同組合同盟(ICA)グローバル総会のテーマ である、「協同組合: 開発の中心に人々をおく」を検討する中 で、SDGs(持続可能な開発のための2030アジェンダ)を 扱うにあたり、未来を担うユースや大学生協/キャンパス・ コープが果たす役割が重要になってくることから、アジア太 平洋地域を始めとする世界中のユースや大学生協/キャン パス・コープが集まり、活発な交流や議論をすることによっ て、今後の活動に活かしていくことを目的にしています。

2) 助成金を受けての成果とその評価

i) 日本の大学生協連としての成果

全国の大学生協から学生の参加を募り、その中から 2名がワークショップに参加することができました。「日 本の大学生協のとりくみとSDGs」のプレゼンテーショ ンを様々な方に協力していただきながら作成して、英語 でプレゼンテーションを行って、各国の参加者と有意義 な意見交換をすることができました。

参加した学生は、とても新鮮な視点でワークショップに 参加し、協同組合の価値を見出し、今後の活動にも活か していきたいと感想を語っていました。

「本企画に参加するに際し、SDGsに関しての知識を 事前に獲得するために様々なリサーチを行っていた時、 私は正直理想に過ぎないと考えていた。現状と理想のバ ランスを考えると果たして実現できるか疑問であった。 そんな冷めていた私は、様々な取り組みや想いを聞い て、理想に突き進んでいる人たちの存在を知った。人々 の力を信じてできる事を確実にやることで前に進んでい る人たちの想いを知って、私にももっとできる事がある のではないかと思った。私にできることは大きくないのか もしれない。しかし、環境でも、ジェンダーでも、平和で も、まずは興味を持ち続けて、そして共感の輪を広げて いくことが、大事であると感じた。それができるのが協同 組合であり、これから活動に還元していきたい(関西学 院2年)」

ii) ICAアジア太平洋地域大学/キャンパス生協委員会と しての成果

ICA総会にあわせて、アジア太平洋地域以外の加盟 国にもよびかけて開催されたはじめてのワークショップと なりましたが、参加者120名と大きな盛り上がりを見せ ました。地域もアジア太平洋以外にパレスチナからの参 加者も加わり広がりを見せるとともに、フィリピンからも 学生20名ほどの参加もあり、学生どうしの有意義な交 流が行われました。

特に共通のテーマとしてとりあげやすい国連のSDGs や協同組合7原則をベースに議論をすることができ、今 後協同組合にとって最も重要な世代である若年世代の 担い手たちに学ぶ場を提供することができました。



ICA-AP大学/キャンパス生協委員会の参加の皆さん



ワークショップのグループセッション参加の皆さん

-般公募助成企画 ①

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

ベトナム・フエの農家グループの有機野菜栽培技術研修と 組織力強化事業 Part Ⅱ

助成金額 850.000円

| 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | ベトナム

▶ 安全野菜の販売だけじゃない!

1)活動・事業報告

- 4月 トゥイビュウ人民委員会を通じて、土地の所有 者と土地の借用契約。試験圃場の周囲に、他の 畑との区別、獣害予防のためのフェンスを設置。
- 5月 堆肥場が完成。調整小屋兼倉庫を設置。
- 6月 ため池が完成。
- 7月 直売所直営の試験圃場に散水機、遮光ネット、 防虫ネットを設置。農家専用区画において農家 が栽培を開始。
- 8月 有機肥料の専門家Do Xuan氏を招き、技術セ ミナーを開催。体験農園の区画面積、貸出料 に関する検討を開始。試験圃場で収穫した野 菜を直売所で販売を開始。
- 9月 病害虫防除の専門家Nguyen Van Duc氏を 招き、技術セミナーを開催。
- 10月 台風による大雨に見舞われる。防虫ネットと支 柱が破損し修繕。有機農業視察研修会を実施。
- 2月 体験農園広報イベントを開催。体験農園募集 広告作成、募集開始。試験圃場において、有 機栽培専門家(当団体農業担当)による栽培指 導、病害虫防除の技術指導を行う。有機農業 視察研修会を実施。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) 試験圃場で直営畑をはじめたことで直売所の品数を 増やすことができました。まだ地力や栽培技術向上 などの課題もありますが、2,3年と取り組みを継続す る中で解決して行きます。
- ii) 有機栽培技術向上を目的に、試験圃場に農家専用 区画を設けました。これに賛同した農家が積極的に 有機栽培に取り組みました。専門家に対して頻繁に 質問するなど、課題解決に向けた姿勢が見られまし た。一方、農家自身の畑仕事だけで忙しいなどの理 由で、有機栽培の実践に参加する農家が少ないと いう課題が残っています。今後も引き続き、有機栽 培技術向上のために、農家の畑を頻繁に訪問するな ど、技術支援を継続して行きます。
- iii) 体験農園という新しい取り組みを始めました。 競合 店が現れる中で、安全野菜を販売するだけではなく、 競合店との差別化を図るユニークな取り組みです。 これによって直売所が、生産者と消費者を直接つな ぐ場であることを消費者に実体験してもらえます。今 後、訪れて楽しい農園づくりを目指して、生産者と消 費者が交流する場として、さらに発展するよう、支援 していきたいと考えています。



試験圃場で栽培した野菜の販売 (写真手前の人参)



体験農園広報 イベントの開催

専門家派遣(病害虫防除) Nguyen Van Duc氏

般公募助成企画 ②

特定非営利活動法人 ホープアンドフェイスインターナショナル

ネパール・ヒマラヤ養蜂プロジェクト

助成金額 613,000円

実施期間 2017年4月1日~2018年2月28日 相手国 ネパール

▶ ヒマラヤ山脈の麓で養蜂事業にチャレンジ! それは試行錯誤の連続・・・ ////

1)活動・事業報告

- 4月 養蜂用植物を植える。養蜂箱の購入と制作。
- 5月 養蜂箱50個設置。養蜂用植物を植える。
- 6月 7箱に蜂が定着、43箱に呼び込み実施。養蜂用 植物植える。
- 7月 蜂の定着が3箱に減る。
- 8月 収穫開始3ヵ所の養蜂場所より12kgのハチミツ を収穫。びん詰め作業、現地養蜂事業環境改善 指導を行う。
- 9月 現地で1回目の収穫1kg×12本を販売し 8,400Rs(約8,600円)の収入になる。
- 10月 蜂が群れる時期なのに3~4月よりも少ない異 常事態。女王蜂を2匹交換する。専門家に養蜂 事業環境の改善を相談(設置位置、外敵防護柵、 病害虫予防、管理体制強化。~11月)。
- 12月 2回目の収穫32kg×800Rsを販売し25,600Rs (約28,100円)の収入。冬季は蜂の休息期間 で、卵のみ巣に残る養蜂箱の保全管理を行う。
- 1月 販売決算、担当理事訪問、現場指導を実施。
- 2月 花が咲きだし、蜂の活動が活発になる。幼虫の 巣も大きくなり、最初の雄の巣も確認できた。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) ソルクング郡バサ村は、ネパールの首都カトマンズ から東方約150キロ、最寄りの空港から徒歩で15 時間、標高2000~3000mの位置にあります。現地 の要望にもとづいて養蜂に取り組みましたが、計画 では50個の養蜂箱を稼働させる予定でしたが、実際 は8月の収穫を終えて稼働している養蜂箱がわずか 3箱にとどまりました。貴重な助成金を受けて取り組 んだプロジェクトですが、現地と日本側双方でそれを 活かすだけの知識も経験も不足していました。
- ii) 10~11月、蜂が巣箱に定着しない原因を、メール、 電話などで現地とやり取りし、日本の養蜂学専門家 に状況を説明、相談し、いくつかの改善策を検討し たうえで、ネパールの担当者が12月に現地を訪問 し、状況を確認、改善策を実施。
- iii) 失敗の原因は、日本で研修を受けた担当者に、全く 異なる環境下で、この事業を任せる知識も経験もな かったこと。さらに、日本側担当者にも進捗管理の甘 さがあったことです。今回の失敗に学んだことで、プ ロジェクトを実行する力量が確実に向上できたと実 感しています。



従来の巣箱は古い木をくりぬい たもので再利用ができなかった

新しく導入した近代的な養蜂箱50個 セイヨウミツバチには適しているが・・・



現地の蜂は養蜂が難しいヒマラヤト

ウヨウミツバチだった

ヒマラヤ山麓での養蜂箱設置作業

-般公募助成企画 ③

特定非営利活動法人 スバ・ランカ協会

スリランカ・サバラガムワ州ケーゴール県の 農山村での1州1品運動の第一歩事業

助成金額 900.000円 | 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | スリランカ

▶ 紆余曲折はあったが、とにもかくにもアイスクリームの製造・販売をスタート ///

1)活動・事業報告

- 5月 現地のカウンターパートへ送金。アイスクリーム 製造機械を直ちに買う予定であったが、農業省 から機械価格の半額を補助するとの連絡があっ たため、補助金が出るまで待つことにした。
- 8月 牛乳生産者協同組合の会員9名に貸付を行っ た。うち、牛舎建設が3名、乳牛の購入が4名、 牛乳製品製造のための道具の購入が2名であっ た。アイスクリーム製造機械の購入に関する政 府補助金(半額補助)が支給される予定だった が、結局、補助金は得られなかった。
- 2月 家畜研究所の助言に従い、ケーキ撹拌機を買 い、アイスクリーム製造に使用することにした。 アイスクリーム製造を開始、1日40Lの牛乳を 使い、撹拌機で撹拌し、冷蔵庫に入れる。2時 間後に取り出し、2回目の撹拌を行い、冷蔵庫 に入れる。これを2回繰り返し、冷蔵庫にのべ6 時間入れておく。その後、撹拌したもの(アイス クリーム)を1Lの容器に入れ6時間冷蔵する。 これで60Lのアイスクリームができる。トラック と保冷庫を購入し、近隣のおよそ24軒の小商店 にアイスクリームを配送し売った。

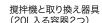
2) 助成金を受けての成果とその評価

- i)貸し付けに関して、現地の判断で増額したが、これ はよかった。貸し付けを受けた人々がありがたいと感 謝していた。組合ができた当初は、現地カウンター パートが居住するアルピティヤ村で会員は4軒だけ であったが、今では14軒に増えている。全体として も38軒に増えており、特に若い人が牛乳生産を事業 としてとらえるようになっていると思う。
- ii) 紆余曲折はあったが、とにもかくにも機械によるアイ スクリーム製造が開始され、今後、アイスクリームを 含めた乳製品の製造販売が順調に進めば、ますます 事業感覚のある若者が増えるだろう。
- iii)組合長の息子もIT会社に勤める傍ら牛乳生産を手伝 うようになったそうであり、牛乳を持参する若者もよ く見かけるようになった。今後は組合独自の牧草地、 牛舎、乳製品製造所を確保し、事業規模を拡大し、 他地域に新たに牛乳生産者組合を創設できるように し、カァーガッラ県、サバラガムワ州に広げて1州1 品運動につなげていけるよう努力したい。



子牛に吸わせた後に搾乳。 これを2・3回繰り返す

貸付金で乳牛を購入した。 まだ子牛であり、3月に妊娠予定





輸送用の幌付きトラックを購入

−般公募助成企画 ④ │実 施 <u>組織名</u>

一般社団法人 わかちあいプロジェクト

ミャンマー・カヤ州におけるコーヒー栽培農家への 生産者組合設立支援 PartⅢ

助成金額 850.000円

|実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | ミャンマー

▶ いよいよ日本でも販売開始! コーヒーの収穫量が順調に増加しています //////

1)活動・事業報告

- 4月 新規メンバー募集の実施。ヤイブラ村では新メン バーとして6名が決定したが、ドービャク村では 応募がなく、新規メンバー決定には至らず。
- 5月 既存メンバーから新規メンバーに共同作業を通し て技術を伝達。現地コーディネーター2名がカヤ 州の事業担当者を訪問、業務打ち合わせを実施。
- 6月 共同作業、情報共有のための定期会合を実施。 既存メンバーから新規メンバーへ技術・情報共 有、共同作業を実施。
- 7月 コーヒー栽培技術専門家を派遣し、技術指導を 実施。ヤイブラ村では各組合員の農地を訪問し、 技術指導、栽培状況を確認した。ドービャク村で は、組合員の役割分担、今年の販売方法、品質 向上に関する会合を実施。
- 8月 現地コーディネーターが訪問し、栽培方法に関す るアドバイス、収穫に向けての準備・販売計画に ついての会合を実施(~12月)。
- 1月 コーヒー栽培技術専門家を派遣し、技術指導を実 施。栽培状況や収穫状況、加工状況を確認。乾燥 台の建設、脱穀機の使用方法の指導。
- 2月 組合全メンバーで情報共有、共同作業を実施。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) ドービャク村では、新しいコーヒー苗と農地への移植 を進める。現存するコーヒーの木の栽培状況も順調 で収穫量は年々増加している。2018年1・2月に約 500kgを収穫した。専門家からの技術習得の意欲も 高く、訪問する度に指導の成果を確認できた。また、 組合内での役割分担を明確にし、品質管理、販売管 理、資材管理、会計管理を担当者で分担。リーダー1 人に仕事が偏ることなく、組織を強化することができ
- ii)ヤイブラ村では、6名の新規メンバーが加わり組合 員が18名になる。新規メンバーを加えて栽培方法の 指導や、苗床の栽培・施設管理。また、苗の移植な どの共同作業が行われた。移植から3年目を迎える コーヒーの木は、栽培状況に大きな問題はなく収穫 ができる見込み。
- iii) 現地コーディネーターをインドネシアの農園へ派遣 し、栽培技術や加工技術を学んでもらったことがプ ロジェクトの成果につながった。



ドービャク村の組合リーダー



ドービャク村でのコーヒー豆の収穫



ヤイブラ村では初めて 機械を使った脱穀を行った



ヤイブラ村でコーヒー豆の乾燥台を建てる

-般公募助成企画 ⑤

特定非営利活動法人 ハロハロ

フィリピン・ボホール州アルマール村 地域海藻水産業組合設立支援

助成金額 | 980,000円 | 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | フィリピン

▶ 海藻水産業組合を立ち上げ、マングローブ植樹にも取り組みました ////////

1)活動・事業報告

- 4月 組合の方針、今後行う活動について話し合われ 大筋合意。他島の海藻業組合を訪れ、組合の 管理体制・海藻の栽培方法について勉強。組 合の方針とルールを明文化し、全員で合意。 4/22にASFA(Alumar Seaweed Farmers Association)が正式に設立された。
- 5月 海藻準備金として、一人当たり1万ペソ(約2.2万 円)の資金を組合海藻農家15人に配布。
- 7月 組合員の海藻栽培視察を開始。組合で海藻の市 場との直接取引に必要な小型船を購入。
- 9月 コンポストゴミ箱の設置、コミュニティ沿岸清掃プ ログラムの開始、マングローブ苗木の育成開始。
- 10月 株分けを行いつつ、実際に収穫・換金化できる 農家が増えていった。
- 11月 100本のマングローブの試験植樹を実施。
- 12月 多くの農家が実際に収穫に移り、約半数が平均 100ラインのプランテーションを実現。
 - 2月 組合メンバーと一年間の活動評価を行った。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) 地域問題に対し継続的にアプローチできる主体とし てASFAが設立できたこと自体、大変意義あることで した。とくに、ASFAが海藻業という自分たちの利益 だけにとどまらず、環境事業や小学校との共同活動 など、コミュニティ全体の利益を考えられる組織とし て成長しつつあることがあげられます。
- ii)海藻栽培が拡大しました。当助成金の予算の一部か ら海藻準備金を組合員に配布し、海藻の栽培規模の 拡大が実現できました。海藻の作付け縄の本数が、 実施前の30本から72本へと増加するなど、定量的 な成果が得られました。視察やトレーニングなどを通 じて、海藻栽培の技術全体も少しずつ向上しており、 今後も生産性の拡大が期待できます。
- iii) 地域全体の環境を良くする取り組みとして、地域清 掃、マングローブ植樹など、小学生への環境教育に 後半から取り組みました。ASFAの活動が地域全体 の利益のために広がった事例として、大きな成果だと いえます。来年度はさらに規模を拡大する予定です。



海藻栽培地の定期視察



運送事業もはじめました



小学校と共同でマングローブ植樹



コミュニティ沿岸清掃プログラムを実施

-般公募助成企画 ⑥

特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター21

スリランカ・女性住民組織による共同農業ビジネス開発と 市場開拓を通じた地場産業の育成と女性のエンパワメント

助成金額 996.000円

| 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | スリランカ

▶ 女性たちが一丸となって大手買取業者と交渉、全国規模の市場に参入へ /////

1)活動・事業報告

- 5月 生産者情報(780世帯の農業関連データ等)質問 票案の作成。
- 6月 オリエンテーション・ワークショップ、生産者情報 質問票案のフィールド・テストの結果をもとにし た質問票の改訂、MC建設にかかる関係者会合・ 建設業者の選定。
- 7月 農産物の加工・保管施設(マーケティング・セン ター)の建設開始(~11月)。
- 9月 有機農産物販売を行っているNGOの現場視察等。
- 11月 マーケティング・センター建設完了。
- 12月 銀行、大口買取業者との交渉。
- 1月 農産物市場開拓(継続)、加工機械の調整。

2) 助成金を受けての成果とその評価

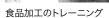
i) 本事業を実施するまで、地域の小規模農家(男女問 わず)には集団のマーケティング・システムがなく、 仲買人や、購買力がある農産物の買取業者に搾取さ れてきた。本事業で大手の買取業者を開拓し、販売 する目途がたち、さらに地元の銀行「Commercial Bank」と交渉した結果、低利(年利6%)で提供する 融資先の小規模生産農家(女性組織のメンバーで優 秀な生産農家)を現地カウンターパートのUWWO*

- が推薦することになった。このように、地域の農産物 のマーケティングの組成が大きく変化しつつある。こ れは、この事業でもたらされている最大の前向きな 変化であり、小規模生産農家が高利貸し兼仲買人か ら解放される日も近い。
- ii) 生産者および地域住民が、各居住地域の特徴や傾向 を知り、課題と問題が特定された。そしてその結果 を18の女性組織が共有することによって、各女性組 織が、組織としての行動計画を策定する準備に着手 している。特定された課題は、女性組織が解決でき る課題、UWWOと女性組織が連携して解決する課 題、女性組織、UWWO、政府機関、その他機関が 連携して取り組む課題に分けられた。
- iii) 18の女性組織が一丸となって強化され、全国規模で 展開する大手買取業者と取引ができる安定した市場 にアクセスする見通しがたった。

※UWWO: Uva Wellassa Women's Organisation(ウバ・ウェラッサ女性団体)



調査結果を共有、課題と問題が特定された



農産物の加工・保管施設 (マーケティング・センター)完成



収穫したピーナッツを入れる袋の滅菌作業

-般公募助成企画 ⑦ |実 施 _{組織名}

認定特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

カンボジア・ロカブッス村協同組合組織化による コミュニティ・レジリエンス向上支援事業 Part II

助成金額 999.000円

| 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | カンボジア

▶ 家畜銀行に鶏とアヒルも加わり、村人への貸し出しがはじまりました ///////

1)活動・事業報告

- 5月 養鶏・アヒル飼育対象者を選定。2つのコミュニ ティの定例自治会で野菜栽培技術訓練を実施(~ 2月)。ヘチマと丸茄子の種子を配布。
- 6月 村の養鶏・アヒル専門家を育成するため技術訓練 を実施。かぼちゃと冬瓜の種子を配布。
- 7月 村人たちを対象に養鶏・アヒル飼育技術訓練を 実施(~8月)。南瓜と丸茄子の種子を配布。
- 8月 青菜と長茄子の種子を配布。
- 9月 鶏・アヒルの家畜銀行を設立。鶏とアヒルの貸し 出しを開始。空芯菜と青菜の種子を配布。
- 10月 養鶏・アヒル飼育者の飼育状況をモニタリング (~1月)。四角豆と葉物野菜の種子を配布。
- 11月 村での養鶏・アヒル飼育者へのフォローアップ訓 練を実施。トマトとブロッコリーの種子を配布。
- 12月 再度、養鶏・アヒル飼育者の飼育状況をモニタリ ング。カリフラワーと冬瓜の種子を配布。
 - 1月 ヘチマと葉物野菜の種子を配布。
 - 2月 アヒルは卵を産み始め、鶏はまだ成長していな い。空芯菜と人参の種子を配布。野菜栽培、家畜 銀行、ハリナシミツバチの評価調査を実施。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) 家畜銀行によって、牛やヤギは、まとまった出費のた めの家畜資産になり、鶏やアヒルは、収入源の一つ になりました。村人の自立と自治が高まりレジリエン スの向上につながりました。
- ii) 鶏飼育者のなかには、感染症で鶏が全滅した家族 も出ましたが、きちんと飼育技術訓練を学んで実践 した家庭では、鶏を50羽以上繁殖させ、2月に販売 し、約225ドルの収入を得たところもありました。家 畜銀行によって、鶏・アヒルが死んでしまった家族 へ、別の家族から返却してもらった家畜を貸し出しす ることで、リスクに対処できる仕組みができました。 村で家畜専門家を育成したことで、村人が協同組合 の運営に積極的にかかわり、ミーティングでも積極 的な発言が増え、村のマーケットをどう発展させてい くか、話し合いができるようになりました。
- iii) ファーマーズ・マーケットは、毎月1日と15日に定期 日開催することにしました。常時マーケットで販売す る村人は5人に増え、地元で採れた野菜や果物を販 売している。これからもっと地元産の農産物の販売 を増やしていきたい。



村の家畜専門家による 村人たちへの鶏、アヒル飼育訓練

村で取れた野菜や果物を販売



貸し出されたアヒルを飼育

-般公募助成企画 ⑧ |実 施

特定非営利活動法人 わぴねす

インド・ハンセン病コロニーにおける きのこ栽培・販売トレーニングを通じた自立支援事業

助成金額 806.000円

| 実施期間 | 2017年4月1日~2018年2月28日 | 相手国 | インド

▶ 収穫したきのこを自ら販売!

1)活動・事業報告

- 7月 現地カウンターパートが村人と事業計画について 協議。
- 8月 ハンセン病コロニーの状況を視察。
- 9月 菌種生産ファームを訪問、栽培に関してのアドバ イスをもらう。インドにおけるきのこの今後の需要 予測のため、デリー市内のスーパーを訪問。菌種 生産者を招き、コロニーのきのこ栽培室の状態を 確認。
- 10月 栽培トレーニング受講者を決定。栽培トレーニ ング受講者に対するオリエンテーションを実施 し、契約書を締結。コロニーの人たちからマネー ジャーを選抜。菌種生産者によるリノベーション 後のきのこ栽培室の状態チェック。きのこ栽培の トレーニング開始(~2月)。菌種生産者から受 講者向けの菌床製作デモンストレーションとレク チャーを実施。
- 11月 販売トレーニング受講者を選抜、販売トレーニン グ開始(~2月)。
- 12月 栽培、収穫、販売を随時実施。第1回売上金の分 配を行う。
 - 1月 第2回売上金の分配、2月第3回売上金の分配。

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) 昨年きのこ栽培を行ったときは病原菌にやられてし まい、収穫量は想定の10分の1程度ととても少ない ものでした。第2回目となる今年は事前に病気対策 などを行うことで、特に問題なく、最終的に十分な収 穫量になりました。今後は栽培量を増やし、新しい 種類のきのこ栽培にも着手することで参加者の収入 を更に向上させていく予定です。
- ii) 収穫したきのこを販売し、月間世帯収入の約25%~ 30%程度の収入増に寄与しました。参加者全員が栽 培ノウハウを会得し、販売にもチャレンジしました。 慣れないことだったため、途中で弱音を吐くメンバー もいましたがメンバー同士で協力しあい、事業を進め ることが出来ました。これまでは関わることがなかっ たコロニー外の人たちと交流するきっかけになったと の声がメンバーから出ました。
- iii) メンバーが自発的に行動するようになりました。参加 者の意識が変化してきていることを感じます。具体的 にはメンバーが担当業務を怠ったときなど、リーダー が当団体スタッフに頼らずに、自分たちだけで話し合 いをし、解決に臨むなど、積極的な行動が見られる ようになりました。



きのこを100g毎に パックします



菌種生産工場のオーナーによる研修



きのこの菌床作り



パック詰めしたきのこを近隣住民に販売

第 3 章

2018年度の活動計画

- 2018年度計画決定の経緯
- 2 2018年度事業計画
- 3 2019年度の一般公募について

第3章 2018年度の活動計画

■ 2018年度計画決定の経緯

アジア生協協力基金では、毎年、その年度に想定される基本財産の利子相当分を財源とし、 助成事業として1)国際協力助成企画(日本生協連 国際活動委員会が定める企画)、2)一般公 募助成企画の2事業を行うとともに、年度によっては3)生協総研の独自企画を行ってきました。

2018年度の助成事業予算枠は、一般公募を2017年9月から実施するため、他の予算に先 駆けて、生協総研第2回理事会(2017年7月28日開催)において論議し、国際協力助成企画に 600万円、一般公募助成企画に700万円、会議費等に420万円、助成成果確認事業経費350 万円を加えて総計2.070万円とすることを決定しました。

生協総研の一般公募では、2017年12月21日の書類審査、2018年1月25日のプレゼンテー ション審査を経て、7組織に対する680万9,000円助成の提案を決定しました。また、2018年 度には、助成成果確認事業を行うこととしました。

これらを総計した2018年度の事業計画と予算案は、2018年2月2日に開催された生協総研 第4回理事会で承認されました。

さらに、2019年度の国際協力助成企画および一般公募助成企画の助成枠については、 2018年4月26日に開催された2018年度第1回運営委員会で論議しました。助成枠を2018 年度同様の1.300万円を計上し、生協総研理事会に提案することを決定しました。

2 2018年度事業計画

(1)国際協力助成企画

日本生協連第2回国際活動委員会(2017年12月15日)で起案され、アジア生協協力基金 2017年度第4回運営委員会(2018年1月25日)で確認された6企画に対して600万円の助成 を行います。なお、この企画には、全国大学生協連と医療福祉生協連による企画がそれぞれ 1 件ずつ入っています。

≥ 2018年度国際協力助成企画一覧

No.	相手国	企画名	助成額(円)	
1	アジア	ICA-AP 選抜生協マネジャー研修1	1,800,000	
2	アジア	ICA-AP 選抜生協マネジャー研修2	1,900,000	
3	スリランカ (開催国)	ICA-AP生協委員会主催 南アジア地域生協開発ワークショップへの講師派遣・開催費補助	500,000	
4	ベトナム (開催国)	ICA-AP生協委員会主催 生協経営ワークショップへの講師派遣・開催費補助	600,000	
5	イラン(開催 国・変更の可 能性あり)	(全国大学生協連) ICAアジア太平洋地域大学/キャンパス生協委員会セミナー	400,000	
6	ネパール	(医療福祉生協連) 協同組合による地域での健康づくり活動の実践教育	800,000	
	合 計 6,000,000			

(2)一般公募助成企画

2018年度の一般公募は、2017年9月1日から10月31日まで生協総研のホームページをは じめ、日本生協連会報・組合員活動情報、さらに東京ボランティアセンターや国際協力NGO センター(JANIC)など4つのウェブサイトで募集案内を広報しました。その結果、17組織から 応募をいただきました。

第3回運営委員会での書類審査で10組織に絞り込み、第4回運営委員会でのプレゼンテー ション審査を行いました。 厳正な審査の結果、7組織への総額680万9,000円の助成を理事 会に提案し、承認されました。

≥ 2018年度一般公募助成企画一覧

No.	相手国	組織名および事業名	助成額(円)
1	インド	特定非営利活動法人 わぴねす ハンセン病コロニーにおけるきのこ栽培・販売トレーニングを通じた 自立支援事業	1,000,000
2	カンボジア	一般社団法人 コミュニティ・4・チルドレン 農村における離乳食作りと有機農業技術研修を通じた有機農家組 織化支援	1,000,000
3	フィリピン	特定非営利活動法人 ハロハロ ボホール州アルマール村の海藻水産業組合運営強化と組織人材育成	960,000
4	スリランカ	特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター21 女性住民組織による共同農業ビジネス開発と市場開拓を通じた地 場産業の育成と女性のエンパワメント	991,000
5	フィリピン	特定非営利活動法人 カマル・フリーダ 元スラム居住の母親たちによる複合型組合を基幹とした生計安定化支援	860,000
6	カンボジア	認定特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス ロカブッス村協同組合組織化によるコミュニティ・レジリエンス向上 支援事業	999,000
7	フィリピン	認定特定非営利活動法人 ソルト・パヤタス リサール州カシグラハン再定住地における食育推進収入向上事業	999,000
		合 計	6,809,000

(3)全体予算

助成金総額1,300万円、2018年度は、助成成果確認事業を実施いたします。その経費350 万円と事業関連経費170万円、事務管理費250万円を加えて、2,070万円を全体予算とします。

	2018年度予算案	2017年度予算	2017年度実績
国際協力助成企画	6,000,000円	6,000,000円	4,961,714円
一般公募助成企画	7,000,000円	7,000,000円	6,994,000円
助成成果確認現地視察費用	3,500,000円		_
事業関連経費	1,700,000円	1,590,000円	1,144,773円
事務管理費	2,500,000円	2,200,000円	3,345,140円
合計	20,700,000円	16,790,000円	16,445,627円

▶事業関連経費170万円の内訳;

2017年度成果報告会参加旅費等(2018年4月) 17万円

2018年版活動報告書の印刷・送付費用(2018年6月) 60万円

2018年度運営委員会会議費等 73万円(4回分を想定)

2019年度一般公募審査会参加旅費等(2019年1月) 20万円

※事務管理費は、公益財団法人会計に基づき、当該年度の実績に基づいて計算しております。

(4)2017年度の国際協力助成企画予算は600万円でしたが、医療福祉生協連の企画が中止 となり496万1.714円の実績となりました。

3 2019年度の一般公募について

「2019年度の一般公募助成事業」については、アジア・太平洋地域における人々の協同事業 の発展および地域コミュニティの課題解決をはかるための人材育成などを行う日本国内組織に 対して、2018年9月1日から10月31日まで公募を行います。公募の案内は、生協総研のホー ムページのほか、日本生協連や協力いただけるNPO・NGOの中間支援組織のホームページ などで行います。助成先の決定は、2018年12月の運営委員会による書類審査、2019年1月 開催の書類審査通過組織を対象としたプレゼンテーション審査を経て、2019年2月の生協総 研理事会で決定します。





2017年度一般公募助成事業成果報告会の様子

アジアに架ける虹の橋 アジア生協協力基金活動報告書 2018 年度

編集・発行:公益財団法人 生協総合研究所 (協力:日本生活協同組合連合会・国際部)

〒102-0085

東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

TEL.03-5216-6025

メールアドレス:ccij@jccu.coop ホームページ:http://www.ccij.jp/



アジアに架ける虹の橋 アジア生協協力基金活動報告書 2018